

真校だより第132号 令和8年3月号

ふきのとう

令和7年度 新庄神室産業高校 真室川校 卒業証書授与式



令和8年3月3日（火）に、真室川町長新田隆治様をはじめとする多数のご来賓のご臨席を賜りながら、令和7年度新庄神室産業高等学校真室川校の卒業証書授与式が挙行されました。新庄神室産業高等学校の分校となつてから11年目を迎える卒業式で、6名の卒業生が学び舎を巣立っていきました。野崎修校長先生は、卒業生へのはなむけとして、以下の三つの言葉をプレゼントされました。「①『壁は自分自身』（岡本太郎）。目の前に立ちだかる困難は、実は自分の内なる不安や甘えが作り出しているものであり、その壁を大きくしているのは自分自身である。挑戦を避ける心や恐怖を捨て、自ら壁を破り立ち向かう姿勢こそが重要である。②『素直な心』（松下幸之助）。物事があるがままに見つめ、こだわりや偏見に囚われず、謙虚に真実を受け入れる姿勢が大切である。それは単に人に従順なことではなく、物事の「本質」を見極める強さや正しさ、聡明さを持つことであり、仕事や人生において「自然の理法（成長・発展の法則）」に従い、物事を成功に導く土台となる心構えである。③『優しくあれ、心強くあれ』。他者の気持ちや意見を想像し尊重する心を持つこと、自分に負けない心、困難に立ち向かう精神力を持つことが大切である。」6名の卒業生諸君、希望に満ちた未来へ歩みを進めよう！

令和7年度表彰式

令和7年度同窓会入会式



3月2日（月）に、3年生の表彰式が挙行され、栗田愛梨さんが最上育英会賞、加藤太一君が皆勤賞をそれぞれ受賞しました。これを自信にして、今後もさらに飛躍して欲しいと思います。

3月2日（月）に、3年生の同窓会入会式が開催されました。同窓会長の山田敏一様より「同窓生たちと親睦を深めながら、ともに後輩たちを支えていきましょう」というメッセージを頂きました。これに対し、代表して庄司悠斗君が誓いの言葉を述べました。世話人の、太一君と愛梨さんを中心に、今後も支え合いながら結束を高めていって欲しいです。

高校生活最後のホームルーム～保護者の方々とともに喜びの時間を共有しました～



3月3日(火)卒業式を終えた後の3学年の最後のホームルームの様子です。卒業生、保護者の方々、3学年担任団ともどもみんな素敵な笑顔をしています。入学から卒業までの3年間には、楽しいことも苦しいこともたくさんあったことと思います。色々うまくいかないこともあったけれど、みんなでなんとか支え合いながら、乗り越えてここまでたどり着いた。だからこそ、安心して涙を見せることができるし、笑い合うこともできる。3年生は、そんな素敵な仲間たちになることができたのではないかと思います。卒業生、保護者の方々、3学年担任団、それぞれがそれぞれに対する感謝を伝え合い、幸せな気持ちで一杯になる最高の時間を共有できました。

卒業生に歌のプレゼント



3月2日(月)の卒業式練習の後に、1・2年生及び教職員が、ゆずの「友～旅立つ君へ～」を合唱して6名の卒業生たちに感謝の気持ちを伝えました。その後、全校生徒のメッセージを添えた色紙を卒業生全員にプレゼントしてセレモニーを終えました。卒業生のみなさんに、後輩たちの熱い思いが伝わったのでは？

生徒会リーダー研修会



3月26日(木)に、生徒会執行部を対象にした生徒会リーダー研修会を開催しました。令和7年度後期生徒会活動を振り返り、新年度の生徒会活動をさらに充実させるために何ができるか、みんなで真剣に話し合いました。生徒会のリーダーとしての自覚を持って、新年度の真室川校を引っ張っていって欲しいです。

離任式～4名の先生方とお別れすることになりました(涙)～

3月23日(月)に、今年度末で離任される須藤孝宏副校長、阿部優先生(商業・情報)、安野先生(理科)、門脇明子先生(養護助教諭)の4名とのお別れの会(離任式)を開催し、メッセージを頂きました。「山の神の探究活動で真室川町をくまなく回ったことがとても良い思い出です」(須藤)。「挨拶が素晴らしいだけではなく、しっかり勉強して、社会で一人前にやっていけるように成長していこう」(阿部)。「小さな学校だからこそ、みんなの成長を間近で見守ることができました。これからも素直さと誠実さを大切にして生活いきましょう」(安野)。「町で生活していながら、真室川校のことを何も知りませんでした。今後は一人のファンとしてみなさんを応援していきます」(門脇)。



門脇明子先生
(ご退職)

阿部 優先生
(霞城学園高校へ)

安野文香先生
(酒田東高校へ)

須藤副校長
(山辺高校へ)



学校HP